

事業名 山形自動車道救急車退出路 整備事業

高速道路と山形県を始めとする地域が連携を図り、全国で初めて病院と高速道路が直結する「救急車退出路」を整備したことで「救急医療施設と高速道路」相互の整備による広域的な救急医療体制の確立、病院間の連携強化等救急医療体制の強化に高く評価された事業

受賞機関 日本道路公団東北支社
山形管理事務所
山形県村山総合支庁建設部道路課
事業実施期間 平成14年7月31日～平成14年11月27日
事業費 70百万円

事業等の特徴

本事業は、高速道路と病院を直結する「救急車退出路」を整備したことにより、広域的な救急医療体制の確立、病院間の連携強化等医療体制の強化されたことについて評価されている。医療については、時間短縮が非常に重要であり、病院のサポート地域を大きく拡大した本事業は、高速道路の整備効果を向上させるうえで、有効に整備した例であるといえる。事業の概要と利用者等の評価

- 山形県立中央病院は県立成人病センターと県立救命救急センターを付置した総合医療センターで、三次救急医療機関として山形県の基幹病院の一つである。県立中央病院は、平成13年5月に山形自動車道山形JCT～山形北IC間の青柳地区に移転した。「救急医療施設と高速道路」相互の整備によって、広域的な救急医療体制の確立、病院間の連携強化等、救急医療体制の強化を図ることを目的としている。
- 救急車退出路は、山形自動車道に近接する同病院へ救急患者を迅速に搬送するために山形自動車道に設置した救急車専用退出路である。設置位置は、山形自動車道山形北ICから寒河江側約1.5kmの上り線側で、山形県立保健医療大学の外周道路を経由して山形県立中央病院に繋がる。
- 救急車退出路は、延長約200mで、保険医療大学の



全景



救急車退出路状況

外周道路との取付け部分には、救急車が容易に退出できるようにリモコン操作の自動開閉扉を設置した。

- 「高速道路の整備効果」として、高速道路を利用した救急搬送が新聞・テレビ等に取り上げられるなど、地域の高い評価を受けている。広域的な救急医療体制の確立、救急医療体制の強化に寄与している。

審査委員会委員の意見等

- 救急車退出路整備そのものは小規模事業であるが、高速道路整備事業において広域医療という社会的要請に柔軟に応え、経済社会全体としての効率性を高めたという点において、社会性の高い意義のある事業であり、推奨される。
- 高速道路と病院が直結されたことで、地域の医療体制が広域的になり、また、搬送時間が短縮されるなど救急医療体制が強化されている。
- 高速道路と地域医療との連携のあり方の好例として評価できる。低予算で大きい効果を上げている。
- 救急体制や防災等、道路はライフラインとしての新しい時代のニーズに応えなければならない。今後はサイン等を含め、より一層の向上を望みたい。